

# 読書推進運動



公益社団法人

読書推進運動協議会

〒101-0051

東京都千代田区神田神保町1-32

出版クラブビル 6階

TEL 03(5244)5270

FAX 03(5244)5271

発行人 小塚 昌弘

編集人 片岡 伸子

No.655 ★「第61回 全出版人大会」開催(5頁)

定価 60円

会員の購読料は  
会費の中に含まれる

## 今こそロシアの文学を

国際理解のツールとしての読書

国立大学法人 岩手大学  
人文社会科学部 准教授まつした たかし  
松下隆志

ロシアによるウクライナへの武力侵攻からすでに3か月以上が経ちました。停戦の見通しは立たず、事態は混乱を深めています。いかなる理由があれ、ロシアが問題解決のために戦争という暴挙に出たことは決して正当化されることではありません。しかしその一方で、ロシアを単純な「悪者」に仕立て上げ、あまつさえその国の文化までも排除してしまえという動きはあまりに短絡的です。

私はロシアの現代文学を中心に研究や翻訳を行っています。開戦後は依頼を受けて現代文学の状況について書いて話したりする機会が急増しましたが、どの作家が戦争反対で、どの作家がプーチン支持かといった話題にばかり注

目が集まり、いささか辟易しています。作家は基本的に政治家ではありませんし、はつきりと白黒つけて語れない物語の機微にふれるからこそ、文学作品を読む醍醐味だと思うからです。

いまや多くの日本人にとってロシアは疎遠な国ですが、ともに西欧の強い影響下で近代化を成し遂げた日本とロシアには共通点が多くあります。両国とも後発国としての劣等感を抱き、たとえば夏目漱石は有名な講演で日本の開化は外発的で皮相的だと喝破しました。

それに対して、地理的・文化的に西欧に近く、2世紀半もの間モンゴルの支配を経験したロシアにとって、自国のアイデンティティをめぐ

から資本主義へと形を変えてきたけれども、国家としての本質は何ひとつ変わっていないと語っています。そのヴィジョンを具体化した『親衛隊士の日』(邦訳 2013年、河出書房新社)という小説では、2028年のロシアが16世紀のイワン雷帝時代と重ねあわされ、さらにはソ連時代のモチーフも巧みに織り込まれています。これは2006年に書かれた作品ですが、独裁者による恐怖政治、西側世界との断絶、天然資源による脅し、中国への経済的依存など、その予言的な内容にあらためて注目が集まっています。

今はこの残酷な戦争が早く終結し、ウクライナの人々が苦しみから解放されることを願うばかりですが、いざれ訪れる戦後のことを考えると、私たちの隣国であるロシアにただ背を向けていることはできません。ロシアという「近くて遠い国」を理解するために、文学はまさに格好の導き手となるはずです。

## ■「第27回 日本絵本賞」決定

新しいスタイル、構成の妙などが  
魅力の4作品が受賞

公益社団法人 全国学校図書館

協議会（全国SLA）は、4月22日（金）に「第27回 日本絵本賞」の

最終選考会を実施し、2021年に刊行された絵本より選ばれた最終候補絵本30点より、4点の受賞作を決定した。

各賞は以下のとおり。

## ●第27回 日本絵本賞大賞

『たまごのはなし』

しおたにまみこ／作（ブロンズ新社）

## ●第27回 日本絵本賞

『おすしやさんにいらっしやい！…生きものが食べものになる



最終選考会では、候補作を1冊ずつ  
ていねいに論評

まで』

おかだだいすけ／文、遠藤宏／写真（岩崎書店）

『はるのひ… Koto and his father』

小池アミイゴ／作絵（徳間書店）

## ●第27回 日本絵本賞翻訳絵本賞

『夜をあるく』  
マリー・ドルレアン／作、よしいかずみ／訳（BL出版）

最終選考委員会では、絵本賞大賞の『たまごのはなし』について、

「ダークなユーモアにあふれ、独特な質感の鉛筆画に淡彩をほどこした絵柄は、不思議な魅力」など、

子どもも大人も楽しめる不条理な世界と、主人公のたまごの特異なキャラクター性を評価する声が多かった。

絵本賞は2作品が受賞。写真絵本『おすしやさんにいらっしやい！』は、魚が釣られてから、捌かれ、お寿司となつてたべられるまでを、すばらしい写真と巧みな構成力でまとめ上げた」と評価された。魚介類の形にあわせて、220×286mmという横長の判

型を採用している。

『はるのひ』は、一見素朴な作風だが、主人公の少年の心象に応じた背景の変化や、「とーちゃん、おーい」「おーい」という、少年と父親との呼び交わしが効果的で、共感を呼んだ。

翻訳絵本賞の『夜をあるく』は、真夜中の山登りをする家族の物語。暗闇の静けさと光の表現の美しさが深く印象に残る。夜の風景の中に潜む動物や植物を見つけるのも楽しい。

表彰式は、6月16日（木）に、オンライン形式で行われる。

全国SLAでは、前回立ちあげた「ポップ交流サイト」を、今回も企画している。これは、最終候補作品30点のなかから、好きな絵本を紹介するポップを書いてもらい、同サイトへ投稿してもらうもの。現在、受賞絵本セットを寄贈し、ポップを投稿してもらった実践校（60校）を募集している。投稿は、6月中旬より受け付ける予定。同サイトでは、30点の絵本タイトルを確認でき、ポップを描く専用用紙のダウンロードも可能となっている。締切は来年2月28日（火）。

●日本絵本賞ポップ交流サイト  
<https://ehon-pop.j-sla.or.jp/>

## ■「第2回 情報活用授業コンクール」受賞者決定

学校図書館の機能を発揮して  
授業を支える実践を表彰

公益社団法人 全国学校図書館

協議会（全国SLA）は、4月18日（月）に「第2回 情報活用授業コンクール」の最終審査会を実施し、

4件の受賞者を決定した。

このコンクールは、学校図書館が教育のインフラとしての機能を発揮し、印刷やデジタル、インターネットによる多様な資料やICTを活用して、児童生徒の主体的・意欲的な学びを支え、授業展開を

深め豊かにし、情報活用能力を身につけさせることをねらいとした授業実践のすそ野を広げることが目的としている。

## ●優秀賞

・森村学園初等部（神奈川県）

5年国語「新聞を読もう」

・練馬区立光が丘第三中学校（東京都） 2年総合的な学習の時間「光が丘から広がる深める郷土学習 練馬区編」

・杉並区立松溪中学校（東京都） 1年総合的な学習の時間「私のメルクマールを残そう 川越校外学習」

・関東学院六浦中学校・高等学校（神奈川県） 高等学校2年聖書「留岡幸助の社会奉仕」

授与式は、6月9日（木）に学校図書館記念の日として学校図書館賞ほか、代表者を招いて合同開催される予定。



学校図書館でテーマを調べ、まとめる  
杉並区立松溪中学校の生徒たち

## ■日本児童文芸家協会 各賞発表

「原爆の語り部」を立体的に描いた  
ノンフィクションを評価

一般社団法人 日本児童文芸家協会は、「日本児童文芸家協会賞」をはじめとする各賞受賞作品・受賞者を発表した。

今年の受賞作は以下のとおり。

●第46回 日本児童文芸家協会賞  
『聞かせて、おじいちゃんー原爆の語り部・森政忠雄さんの決意』

横田明子（国土社）

●第51回 児童文芸新人賞  
『カイトとルソンの海』

土屋千鶴（小学館）

『カメくんといもりくん 小雨ぼっこ』

いけだけい（偕成社）



壇上に並んだ、今年の受賞者のみなさん

## ●第61回 児童文化功労賞

村松定史（児童文学翻訳家・評論家）

協会賞の『聞かせて、おじいちゃん』は、広島県の被爆について体験者によって語られるまでのドキュメント。戦争が起きた原因まで踏みこんだこと、講演録など実際の資料を効果的に入れるなどの子ども向けノンフィクションの新しい形が評価された。

新人賞は2作品が受賞。『カイトとルソンの海』は中世の瀬戸内海を舞台とした歴史冒険物語で、当時の海と人びとの様子が雄大に描かれている。『カメくんといもりくん 小雨ぼっこ』は、川や沢に棲む生きもののたちのキャラクターが魅力的な、心温まる優れた童話集。

児童文化功労賞の村松定史さんは、19世紀フランス文学研究のかたわら、フランス・ベルギーのフランス語児童文学を翻訳し、多くの作品を紹介してきた。

贈呈式は5月20日（金）出版クラブホール（東京都千代田区）で受賞者・関係者のみで開催された。

## ■日本子どもの本研究会 全国大会開催へ

3年振りにリアル開催！  
全国の仲間と語りあう大会を準備中

一般社団法人 日本子どもの本研究会は、「第54回 日本子どもの本研究会 全国大会 未来をひらく子どもと本ーたしかかなつなぐりをはぐくむー」を、7月30日（土）・31日（日）に、国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）で開催する。

30日は、村中李衣衣さん（児童文学作家の記念講演「絵本の読みあいつから見えてきた物語の力」）

性受刑者との関わりを中心に」と、同会長 代田知子さんの基調報告「読むよろこび」をはぐくむブックスタートから始まる子どもと大人の読書体験」に加え、5つの読書会、夜にはテーマごとに語りあう「夜のつどい」を予定。31日は8つの分科会と、野口武悟さん（専修大学教授）の閉会講演「読書から誰一人取り残さないためにーいま私たちが考えたいこと」ができること」が開かれる。参加には参加費と事前申し込みが必要。1日だけの参加も可。6月18日（土）から参加を申し込める。申し込み方法、講座・分科会の詳細な内容は、日本子どもの本研究会ホームページで確認できる。

## ●日本子どもの本研究会

ホームページ

<https://www.jaschonken.com>



全国大会チラシ

## ■大阪国際児童文学振興財団 オンライン講座

期間中、何度も視聴可能！  
昨年出版された児童書を振りかえる

一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団（IICLO）では、現在、オンライン講座「2021年に出版された子どもの本から」を配信している。配信期間は12月15日（木）まで。

講師はIICLO総括専門員の土居安子さん。2021年に出版された子どもの本を約300冊を「新型コロナウイルス感染症にかかわる本」「地震・災害・防災」「性

とからだ」「病気や障がい」「環境」「性の多様化」「多文化共生社会で生きる」「ネット社会に生きる」の7テーマ、絵本「低学年からの読物」「中学年からの読物」「高学年からの読物」「中学生からの読物」「自然科学・社会科学の本の中から」の6ジャンルで紹介・解説し、現在の子どもの本の傾向を探る。対象は子どもに関心がある人。

土居さんは全体の傾向として、

2020年よりも翻訳児童書の新刊が少なくなっていることを指摘。海外との行き来がむずかしい現在、ぜひ、翻訳図書の文化を子どもたちに届けてほしいとも、述べている。

講座の視聴には視聴料が必要。申し込み後は配信期間中、何回でも講座を視聴できる。また、視聴時には資料として、講座で紹介した図書のリスト（各図書の簡単な内容紹介付き）を閲覧できる。

視聴の申し込みなど詳細はIICLOホームページまで。

## ●IICLOホームページ

<http://www.iiclo.or.jp/>



## ■日本児童文学者協会 各賞発表

子どもの心、視点を見つめて  
表現した作品が受賞

一般社団法人 日本児童文学者協会は、日本児童文学者協会賞をはじめとする各賞の受賞者を発表しました。

今年の受賞者は以下のとおり。

## ●第62回 日本児童文学者協会賞

『夜叉神川』

安東みきえ (講談社)

『オイモはときどきいなくなる』

田中哲弥 (福音館書店)

## ●第55回 日本児童文学者協会賞

新人賞

『かすみ川の人魚』

長谷川まりる (講談社)

『うさぎとハリネズミ きょうも』



受賞作を手にしての記念撮影

いいひ』

はらまさかず (ひだまり舎)

## ●第26回 三越左千夫少年詩賞

『あさがおのバレット』

福田恵美子 (竹林館)

協会賞は2点。『夜叉神川』は、子どもが抱えている闇と、光を描き出した文学性が高く評価されての受賞。『オイモはときどきいなくなる』は、登場する者へ注がれる水平なまなざしと、現実と非現実のあわいを描く語り口が心に残る。

新人賞の『かすみ川の人魚』は、独特な世界観と、主人公の性格が主人公向きではないおもしろさなど、個性的な作風が評価された。『うさぎとハリネズミ きょうも』は、キャラクターの性格が物語を動かす一体感が魅力の幼年文学と、好評を得た。

三越賞は、ひらがなで書かれた30編の詩集『あさがおのバレット』。子どもと一緒にページをめくりたくなる詩集と評価を集めた。賞の贈呈は5月27日(金)、中野サンブラザ(東京都中野区)で同協会学習会終了後、出席者数を絞りに行われた。

## ■ちひろ美術館 (東京・安曇野) 夏の展示

世界中の平和と子どもの幸せを願う  
『てぶくろ』 原画全7点を展示

安曇野ちひろ美術館 (長野県松川村) は、6月4日(土)～9月4日(日)に開催する展示「ちひろ美術館コレクション 絵本から飛び出せ! 動物たち」に、絵本『てぶくろ』(福音館書店)の原画全7点(うち1点習作)を出展する。

『てぶくろ』は、ロシアの画家エフゲーニー・ラチョフがウクライナの民話を描いた絵本で、日本でも1965年に出版されて以来、半世紀以上にわたって愛されてきた。今年2月にロシアによるウクライナ侵攻がはじまってからは、

戦争の終結を願い、平和を考える本として、多くの図書館、書店などで展示・紹介されている。

展示「絵本から飛び出せ! 動物たち」は、ちひろ美術館が収蔵する世界各国の絵本画家の作品より、動物を描いたものを選んで「森林」「サバンナ」「ジャングル」などの6つのテーマにわけて紹介。あべ弘士・ライオンのながいいちにち(佼成出版社)、シビル・ウェッタンシンハ『かさどろぼう』(徳間書店)など約80点を展示する。『てぶくろ』はもともと、一部の原画を展示する予定だったが、反戦の願いから、すべての原画を公開する。

同日程で、安曇野ちひろ美術館では、いわさきちひろの『戦火のなかの子どもたち』をはじめ、ちひろが1963年にキーウを訪れた際のスケッチなどの小展企画「世界中のこどもみんなに 平和としあわせを」も開催される。

ちひろ美術館・東京(東京都練馬区)では、「ちひろ美術館コレクション 江戸からいまへ日本の



エフゲーニー・ラチョフ (ロシア)『てぶくろ』(福音館書店)より 1950年

世界中のこども  
みんなに平和と  
しあわせを



ちひろ美術館配布の  
平和を願うステッカー

絵本展」を6月25日(土)～10月2日(日)に開催。江戸時代の絵巻物、絵入り本からはじまり、現在にいたる絵本の姿と子どもたちの表現の変遷をたどる。江戸時代の絵巻「俵藤太」や赤本「ざるかに合戦」などの歴史的な資料と、茂田井武『セロひきのゴースト』(福音館書店)、西村繁男『がたごたごと』(童心社)など、現在広く読まれている絵本の原画が展示される。

7月24日(日)には関連イベント「西村繁男講演会『日本の歴史を絵本に描く』」を予定(オンライン)。こちらは6月24日(金)より参加申し込みを受け付ける。

各館の開館スケジュール、イベント申し込みはちひろ美術館公式サイト(安曇野館・東京館共通)まで。同サイトで、平和と子どもたちの幸せを願う考えのステッカー「世界中のこどもみんなに平和としあわせを」も、ダウンロードできる。

●ちひろ美術館公式サイト  
<https://chihiro.jp/>

## ■「第61回 全出版人大会」開催

この世界の持続可能性のため  
多様なコンテンツとの出会いを提供

5月13日(金)、東京都千代田区のホテルニューオータニで「第61回 全出版人大会」(主催：日本出版クラブ)が、開催され、出版関係者300人が出席した。

開会挨拶で野間省伸・日本出版クラブ会長は、ニューオータニでは3年ぶりの開催となったこと、

今回の大会声明が地球規模の観点から世界の持続性を考えたすばらしいものであることなどを述べ、出版界の行く末を方々を考えた機会にしてほしいと締めくくった。

続いて千葉均・大会委員長が、①大会声明の起草 ②記念品の風呂敷のデザイン ③講演会の演者の決定という、委員長役割について話し、今回は「調和と持続」というコンセプトで選定をおこなったと説明した。その後大会声明を朗読して拍手で採択を行った。

引き続き恒例の長寿者祝賀(17名)、永年勤続者表彰(336名)があった。

最後に『コロナの日々』と題した角野栄子さんの講演会が行われた。角野さんはまず、引きこもり

生活の中で、家にまぎれこんだミノムシとアリという「孤独なもの」とのふれあいについて述べた。

また小学生からのファンレターにふれて「いまの社会は子どもの想像力が損なわれているように、すごく心配」と語った。

そして想像力を豊かにするためには「幼年童話」の存在が大事で、来年度オープンする「江戸川区角野栄子児童文学館」には幼年童話を中心に本をそろえて自由に読んでもらいたいと構想を披露し、最後に「ただ最近絶版が多い」と出版界にも苦言を呈した。



社会、子どもたち、出版界への思いを語る、角野栄子さん

## 大会 声明

かつて、多くの人が希望に溢れる未来を思い描いていました。現代を生きる私たちは自分たちの未来についてのどのような展望を持っているでしょうか。情報技術の進化は、私たちの生活にほんの十数年前でさえ想像できなかった大変革をもたらしました。市井の人々の小さな幸せの場面が一瞬で地球の裏側まで届き、共有される。このような科学技術の進歩は、人と人を繋ぎ、人類をこれまで成しえなかった幸福に導いてくれるのでしょうか。期待に反し、現代においても大国が問題解決に武力を用いることにより、無辜の市民の命が奪われ、人権が著しく侵害される状況があらこちから生じています。それに対して国際世論は一斉に非難の声を上げ、人権が蹂躪された側を支援する動きが生まれます。これは、武力行使や人権侵害、言論弾圧など精神の自由を脅かす行為は絶対悪であるという確立された価値観が多くの人たちの間で共有されているためです。

しかし一方、森林伐採や化学物質の大量使用による環境破壊や、無軌道な化石燃料の消費による温室効果ガス濃度の上昇が、生物多様性の喪失や気候変動等を招き、このままでは私たちの文明社会を持続することができないうとさえ言われています。このような人類全体の存続を脅かす問題について未だ有効な手が打てずにいるのはどうしてなのでしょう。それは、これらの問題を引き起こしているのが私たちの生活そのものであるからです。これまで絶対善と考えられてきた自由競争や経済成長は半ば無自覚に「自然環境や経済弱者からの収奪」を基盤としていました。社会の持続可能性を脅かすものが私たち自身の生き方に起因するものであるのだとしたら、この問題を解決するには価値観のアップデートが必要になるでしょう。それは例えば「競争と成長」よりも「調和と持続」が上位に来るといったものかもしれません。

文明社会の持続可能性の問題も、出版業界の持続可能性の問題も根は同じだと考えられます。自由競争のの名のもとに、「自分だけよければ」「今だけよければ」という行動を続けた結果、どこかに過度な負荷がかかり、「エコシステム」全体の健全性が損なわれたことが出版業界の今の状況をもたらしています。持続可能性を高めるために必要なことは、エコシステムを形成する人や要素ひとつひとつに思いを馳せ、システム全体の構造を理解することです。そのことを世の中に浸透させるために、私たち出版人はこのような論点や価値観を広く紹介し未来の可能性を広げる議論をする場を提供するとともに、自分たち自身がこれらの課題にしっかり向き合い議論し行動してまいります。出版業界の持続可能性を高めるための議論や行動を通して、人類全体の持続可能性を高めることに資することも私たちの大切な役割です。

人間社会だけでなく、自然や宇宙を構成する要素ひとつひとつの営みを想像し、理解することは、人の学びそのものであり、人生の大きな喜びに繋がります。学びの原動力である、ものごとの中に神秘さや不思議さ、面白さを見出す感性、すなわち「センス・オブ・ワンダー」は、多種多様な良質のコンテンツと出会うことで生涯伸びることができるとは思います。私たちは出版活動を通して、人々がコンテンツと出会うあらゆる機会や環境を守り、世界中の人々にその感性の種を届け続けます。そしてこのことが、地球規模の問題を解決し、私たち人類の希望の光となることを確信します。

二〇二二年五月十三日

## 優良読書グループの歩み (6)

2021年度の「読書週間」に際して道府県読書推進運動協議会より推薦され、本会において表彰した全国の優良読書グループの活動報告を掲載いたします。

(順不同)

## おはなしポケット

代表者 渡部 美恵

秋田県潟上市

〈推薦〉  
秋田県読書推進運動協議会

2003年、県主催の読み聞かせ講習会に参加して、実践練習のため、同じ学校へ訪問した人たちでサークルを作り、活動することになりました。

グループ名は『ドラえもん』のポケットのようにおはなしがいっぱい出てくるポケットがあつたら楽しいね、ということを決めました。会員は最初5名でしたが、ほかで活動していたグループのメンバーも加わり、30代から70代までの10名で活動しています。

おもな活動場所は、市内の4校の小学校と子育て支援センターですが、そのほかにもいままでに特別支援学校や学童保育、児童館での読み聞かせ、小学校でのブック

トークや読書ボランティア養成講座などのお手伝いもさせていただきました。

年度始めに各学校より年間計画をいただき、訪問回数はあわせて60回近くにもなります。ですが、昨年と今年は、新型コロナウイルス感染症の影響で例年の半分くらいの回数になりました。それでも学校の方から少し落ち着くと連絡が入り、継続して活動ができています。

こんなうれしいエピソードもありました。3年前、読み聞かせを行なっている小学校のひとつが「子供の読書活動優秀実践校」の文部科学大臣賞表彰を受けたとき、校長先生が「協力してくれた」と、学校報に私たちを紹介してくださったのです。とてもうれしく、少しでもお役に立てたことにみなで喜びました。

私たちが朝、学校へ行くと校長室に通され、そこで待っていると各学年の日直さんが迎えに来て、クラスまで案内してくれます。絵

本の読み聞かせをすること子どもたちから逆にパワーをもらい、目を輝かせ絵本を食い入るように見たり笑ったりする顔に出会えてほんとうに幸せです。

また、その学年での最後の読み聞かせが終わるときには、子どもたちからお手紙をもらったり、お礼のことばや歌のプレゼントもあり、「やってきてよかった」と思っています。

これからも、年6回、市の図書館で講師を招き、勉強会を重ね、少しずつでもスキルアップして子どもたちにいろいろな本を届けていきたいものです。そして、読み聞かせを継続させてくださる学校に感謝し、ほんの少しでも地域に



スキルアップを重ね、いろいろな本を届けていきたい

貢献できればいいなと思います。ら、本好きの仲間たちとの絆を大切に、心豊かに年を重ねていきたいものだと考えています。

## おはなしマドレーヌ

代表者 渡邊 純子

新潟県新潟市

〈推薦〉  
新潟県読書推進運動協議会

「おはなしマドレーヌ」は、1999年、絵本や児童書が大好きなメンバーで発足しました。グループ名は、お菓子のマドレーヌではなく、絵本の「マドレーヌちゃん」からいただきました。

子育て中の私たちは、地域の公民館で絵本の情報交換や勉強会をしていましたが、定期的に公開おはなし会を開催するようになりました。絵本の魅力、楽しさを多くの親子と共有したい……それは、自分たちが自分らしく活動できる居場所でもあったからです。

その後、待望の豊栄図書館が開催し、図書館でのイベント企画に参加。自分たちがゲストを依頼し、「石塚さんの昔ばなしを聞く会」などを毎年(全22回)開催し

ました。語り部の石塚さんが、土地ことばで地元の昔話などを語るこの会は、高齢者の方々に大人気で、毎回おおせい、参加いただきました。

また、子どもの成長とともに活動は地域へと広がり、小学校のふれあいスクール、児童クラブ、老人クラブと、依頼があれば公演に出向くようになりました。絵本の読み聞かせ、語り(ストーリーテリング)、パネルシアター、紙芝居など、メンバーの得意分野を活かし、要望に応じておはなし会をしています。

現在、6人のメンバー全員が、図書館の「絵本・読み聞かせ・ストーリーテリング」講座を受講しています。個々に昔ばなし大学、ブックトーク講習会などに参加し、研鑽に努めています。最近、各自忙しくなり、不定期な集まりしかできませんが、図書館での年間活動計画の企画は、かならず全員で行うようにしています。なかでも、メンバーが講師を務める「わらべ歌と手あそび」講習会は、読み聞かせボランティア、保育士、教職員の方々に大好評で、毎年企画、開催しています。

個々に、他のグループにも所属している者が多く、幼稚園、保育





右の台には「マドレーヌちゃん」の絵本が！

園、小中学校、各図書館での読み聞かせなどの情報交換もしています。顔をあわせれば、絵本談義に花を咲かせ、心も体も癒やされ、幸せな時間が広がります。ほんとうに、「本は魔法の道具」です！

これまで私たちは、無理せず、一人ひとりできることを目標に、楽しく活動してきました。それは、真ん中に「マドレーヌちゃん」がいたから！愛と勇気に満ちた、誇り高きマドモアゼルを心の友とし、私たちはつながっている……なんて素敵なことでしょう♡

今回の受賞に感謝し、これからも絵本やおはなしの世界を多くの方々に届けてゆけたら「幸せだなあ」と思っています。

## あいあいスマイル

代表者 西村 照子

岡山県津山市

岡山県読書推進運動協議会  
〈推薦〉

津山市立図書館のボランティアで集まったなかの絵本好きの4人が、子どもたちに読み聞かせをして始めたのが、「あいあいスマイル」です。

2001年12月に結成。翌年1月に図書館ではじめて読み聞かせをしました。無理しないで細く長く続けようをグループの合言葉にして、できるときにできる人が協力して活動してきました。

私たちの活動は、図書館での毎月の読み聞かせを中心に、図書館まつり、ブックスタート、公民館や親子クラブ、保育園などで行っています。

毎月の読み聞かせでは、季節の折り紙を折って、名札を作っています。子どもたちの名前を呼んで話をすると距離もぐっと縮まり、親近感も増してきます。

公民館では、親子でふれあい遊びや手遊びを広げた空間でのびのびと行っています。お母さん



子どもたちの幸せ、思いを受けとめて

に抱っこしてもらってゆつたりと絵本を見る子どもたちは、笑顔いっぱい、目がキラキラ輝いています。ふれあい遊び後、つぎに進もうとしたら、9か月の男の子が泣き出し、まだ遊びたいと意思表示をしたことがありました。再びふれあい遊びをしたときの最高の笑顔は、いまでも忘れられません。

わが子の、絵本を喜んで集中して見ている姿と、家での姿の違いに驚きながら、読み聞かせに来てくれる方もいらつしやいます。

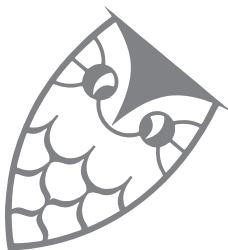
最近では、絵本を前に並べ、子どもたちに好きな絵本を選んで持ってきてもらっています。わくわくしながらうれしそうに、選んだ本

を持つてきます。そして、読んでもらっているときの幸せそうな姿、体中から子どもたちの思いが伝わってきます。

また2020年、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、読み聞かせ活動ができないうちに図書館から依頼があり、絵本作家・関屋敏隆氏の作品『りゅうじんさまは歯がいたい』の読み聞かせを行い、その動画が津山市公式YouTubeで公開され、貴重な体験となりました。

いままで関わっていただいたみなさまと、津山市立図書館の方々に心より感謝しています。

私たちの関わりはほんの少しの時間ですが、それがきっかけで子どもさんの気づきとなり、図書館に足を運ぶなど、絵本を親子で読む幸せをたつぷりと味わってもらいたいと願います。そして、子どもたちが幸せでありますように。読み聞かせを通して、そのお手伝いがこれからもできればと思います。



# 「第14回 矢祭もつたない図書館手づくり絵本コンクール」

## ひとり、家族と、仲間と創った 絵本を全国から募集中!

福島県矢祭町は、第14回となる「矢祭もつたない図書館手づくり絵本コンクール」を開催、「自然・友情・心の大切さ」と、夢と希望がいっぱいつまった手づくり絵本をテーマに、全国から絵本作品を募集する。

募集部門は①一般の部(高校生以上)、②家族の部(中学生以下の子どもが家族と一緒に制作したもの)。それぞれに最優秀賞、優

秀賞などの賞と賞金が設けられている。最終審査は、矢祭町長、柳田邦男さん、あべ弘土さんが務める。最優秀賞は印刷製本され、副賞として作者へ贈呈される。また、入賞作品をすべて電子書籍として3年間公開し、全応募作品を矢祭もつたない図書館で展示する予定。

応募資格はアマチュアであること。個人応募のほか、グループに

### ■学校図書館を考える全国連絡会 集会開催

## 社会変化のなかの教育、 学校図書館の課題を共有

全国各地で学校図書館の整備と充実を願う活動を推進している個人・団体の集まり『学校図書館を考える全国連絡会』は、東京都中央区の日本図書館協会研修室で、7月16日(土)に「第25回集会 ひらこ! 学校図書館」を開催する。

記念講演は、本田由紀さん(東京大学大学院教育学研究科教授)の「日本社会の変容とこれからの教育課題」。問題提起は高木享子

による共同作品も応募可能。

募集期間は6月1日(水)から9

月30日(金)(当日消印有効)。作品の大きさやページ数などの応募規定、応募方法、および、応募時に必要な応募票のダウンロードなど、詳細な情報は、矢祭もつたない図書館ホームページで確認できる。

### ●矢祭もつたない図書館

TEL 0247-46-4646  
http://www.mottainai-toshokan.com  
e-mail=mottainai@educel01.pala.or.jp



集会チラシは同会ホームページで確認可能

さん(元大阪府箕面市学校司書の「なぜ教師は学校図書館を使うのか」教師へのインタビューから見たこと」。が予定されている。

参加には、事前の申し込みと参加費(資料代)が必要。同会の会員以外でも参加できる。本年も昨年同様、新型コロナウイルス感染症対策として会場での参加は申し込み先着60名までとして、同時

## 事務局報告(5月)

- ☆4月23日(5月12日)「第64回この本の読書週間」
- ・3日(5日)「上野の森親子ブックフェスタ2022」開催
- ☆10日「機関紙「読書推進運動」654号入稿
- ☆11日「機関紙「読書推進運動」654号責了
- ☆13日「野間読書推進賞」候補者推薦依頼を関係者へ送付
- ・13日「第61回 全出版人大会」に出席
- ☆17日「機関紙「読書推進運動」654号出来
- ☆19日「2022年度第1回理事会」を開催
- ☆20日「本年度 定時総会開催案内を会員社へ送付
- ・26日「第55回 造本装幀コンクール」下見会に出席
- ・27日「第55回 造本装幀コンクール」審査会に出席

### 【講演会情報】

- JBBY 国際アンデルセン賞と世界の子どもの本講座2022-①「絵本表現の『いま』と『むかし』」
- 講師 広松由希子(絵本評論家)
- 日時 7月17日(日)
- 会場 出版クラブビル(東京都千代田区、オンライン)

本紙653号巻頭に寄稿された広松由希子さんが、「日本の絵本 100年 100人 100冊」(玉川大学出版部)で紹介した作品を中心に、20世紀初頭から現在までの「今」と「昔」の絵本を、テーマにそって多角的に語ります(先着順、参加費が必要)。申込方法など詳細はJBBYホームページ(https://jbyy.org)を参照。

## 編集部・事務局の ひとこと

●子ども時代に読んだロシアの物語でいばん思ひ出深いのは、トルストイの『人はどれだけの土地がいるか』。定番の『おおきなかぶ』は森は生きていて、今回のロシアによるウクライナ侵攻であらためて注目された『てぶくろ』も思ひ出のなかにあります。子ども向け全集で読んだゴッゴリの『鼻』、『外套』の不条理さが心ざわついたことと覚えています。シベリアの誇り高き虎『偉大なる王』も大好きでした。

●当時は1970〜80年代。テレビで流れるソ連(当時)のニュースは、アメリカとの冷戦やアフガニスタン侵攻など、暗く不気味でしたが、有名なバレエ団やピアニストの来日は歓迎されていたと記憶しています。なにより、絵本や物語で知るソ連邦各国は魅力的でした。

●現在、ウクライナで起こっている悲劇にはあつてはならないことで、ロシアの侵攻は絶対に許せません。しかし、ロシア文化、ロシアそのものを排除する気運がうごめいていることも憂鬱です。たがいにわかりあえる点を探るのではなく、切り捨てる傾向が強まっていることに、戦争とは違う恐ろしさを感じています。

●図書館や書店の特設コーナーでは、単純な善悪論ではなく、ロシア、ウクライナ双方の背景にふれた本を中心に、平和を考える本や、思いやり、多様性も、テーマに加えたものが多かったように思います。本を通して理解と共感への道すじを提示する、「本のプロたち」の姿勢と仕事に、励まされています。(伸)